

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200105		
法人名	社会福祉法人 不動園		
事業所名	宇治やすらぎの家 1F		
所在地	宇治市宇治戸ノ内22-6		
自己評価作成日	平成25年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成25年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム宇治やすらぎの家は、数多くの宇治の観光名所や商店街に程近くとも環境に恵まれた地域にあります。その立地条件を活かし、お天気の良い日はなるべく散歩に出かけ、季節の移り変わりや賑わいを感じて頂いております。又、外食の支援や思い出の場所に一緒に行ったりということもさせていただいております。普段からご利用者に寄り添った支援を心掛け、行事の際にはご家族の方にもお声を掛けさせていただいて、少しずつではありますが参加していただいております。ボランティアの方(ハーモニカの演奏・琴演奏)など、二ヶ月に一度来設していただけるようになっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR宇治駅の近く、小規模多機能型居宅介護事業所と併設に2ユニットのグループホームである。開設2年半が経過し、利用者は4人交代、職員は半数以上の入れ替わりがあった。地域との関係がなかなか進まない思いがあるものの、近くの保育園を餅つきに招待したい、中学校の校長先生と連携がとれたり、近くの貸農園を借りる等、新しい取組を目指している。家族の面会は多く、利用者と一緒に外出や食事に行ったり、ホームの外出行事で水族館へ同行したり、毎月1日には一族が集まるため、その日に利用者を連れて帰ったり、事業所と二人三脚で利用者を支援する姿勢が強い。利用者を旅行に連れて行きたい家族の希望があり、検討中である。職員は現在落ち着き、経験豊富で自発的に勉強するなど意欲があり、前向きに業務に励んでいる。なかでも2人のケアマネジャーは、家族に手紙で利用者の様子を知らせ、介護計画への意見を聞くなど、利用者理解が深い。その結果、個別ケアが日常的に実施されており、利用者は自由に伸び伸びと、賑やかな会話がある暮らしが実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より法人理念「共感と信頼」に沿った、やすらぎの家独自の理念「笑顔とやすらぎのある暮らし」という理念を策定し、ご利用者お一人お一人に寄り添って、生活のサポートを心掛けている。	開設1年経ち、法人の理念を踏まえて、職員の話し合いにより「笑顔とやすらぎのある暮らし」という理念を策定している。玄関に掲示し、利用者や家族に説明している。新採用職員には研修し、理念にそった業務に励んでいる。居間では利用者と職員のフランクな会話が日常生活である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや喫茶店に出向き施設自体を認知して頂ける様につとめている。又学区福祉を通じて町内会の催しに参加させていただけるように努めてはいるが、まだ実現はできていない。今後も働きかけは続けていく。	ふだんは近くを散歩したり、買物に行ったりしている。同法人の保育園との交流の他、近くの保育園児を餅つきに招待している。県神社の見物は利用者の楽しみである。ボランティアが来訪し、琴やハモニカの演奏をしてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様に検討課題としてのもままである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一回開催し、出席者へ事業報告を行い、意見や情報を交換し、提供するサービスの向上に努めている。又今年度より2回に1回程度ではあるが、宇治市より担当者も出席頂ける様になる。	運営推進会議は小規模多機能型居宅介護事業所と合同で隔月に実施し、記録を残している。利用者、家族、学区福祉委員、地域包括支援センター、最近では宇治市担当者等がメンバーとなり、意見交換されている。「事故を恐れて利用者を閉じ込めたりすることのないようにしてほしい」等の意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記のように宇治市からも運営推進会議に参加して頂ける様になる。また必要に応じて宇治市の介護保険給付係の担当者と電話や面談を行っている。	宇治市の担当者とは日常的に報告・相談等を行い、良好な関係である。市の介護相談員が毎月来訪し、利用者の声を聞いている。必要な利用者があり、成年後見制についても進めている。宇治市地域密着型事業所連絡会について、開催を要請している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの玄関は、昨今の事件等を受け、防犯の為施錠しているが、連結している小規模の玄関は日中開放しており出入りが自由である。又各フロアの入り口は常に出入り可能にするとともに、職員研修によるケアの向上を目指している。	「拘束をしないケアの実施」について、契約書に明記し、利用者・家族に示している。職員研修を毎年実施、マニュアルを備え、スピーチロックについても職員は認識している。昨年外へ出ていく利用者があり、玄関ドアを施錠している。2階へのエレベーター、階段等は開放されている。	玄関の施錠に関して、職員の話し合いにより、その必要性、開錠のための工夫等について、検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時に契約内容・施設の方針等を説明し、理解・同意を得ている。また質問についても説明を行っている。契約後もいつでもお話しできるように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議を二ヶ月に一度開催し、出席者へ事業報告を行い、意見や情報を活かし、提供するサービスの向上に努めている。また成年後見人制度をご利用の方も3名おられるので、後見人様のお話を聞く機会も持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容・施設の方針等を説明し、理解・同意を得ている。また質問についても説明を行っている。契約後もいつでもお話しできるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、介護相談員が来所されご利用者の要望の聞き取りを行ったり、家族会を開催し家族同士の意見交換や要望を聞く機会を設けている。	家族には隔月に1回、広報誌を届け、行事案内や職員異動を報告している。多い人は2,3日ごとに面会に来ており、また後見人も来訪し、利用者と一緒に時を過ごしており、その際に意見を聞いている。遠出の外出やクリスマス会などの行事に家族が参加しており、その後で家族同士が交流している。旅行に連れて行きたいという家族の希望があり、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なかなか職員の時間を割くことはできないのですが、今年度より勤務時間内や勤務終了後に15分程度ではありますが、管理者と個別の職員との面談を始めました。これからは、年2回程度はそのような時間を設けていきたいと考えております。	毎月業務会議とケア会議を1回ずつ開催し、職員は全員出席、欠席者の押印を残している。今年度より年2回、管理者と個別の職員との面談をし、意思疎通を図っている。内部研修は隔月に実施、外部研修は情報により希望者が参加している。法人内研修に関しては段階的に設定されており、年間のプログラムがある。「お風呂にてすりをつけてはどうか」「外出行事に家族もさそっては」等、職員は活発に意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、必要な対応ができる様に努めている。またパート職員に関しては、雇用更新時に時給をアップをしたりもしている。又パート職員から正規職員への開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験がない方でも福祉に情熱をお持ちの方であれば採用し資格などの習得を推奨している。また、内部研修にも出来る限り参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の介護支援専門員連絡会に参加している。又宇治市が地域密着型施設の連絡会を作るように検討している途中である。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面談においては、利用中のサービス先や家庭を可能な限り訪問し、本人の思いや要望を聞き取り、安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様可能な限り、ご家族の方々の思いや要望を聞き取り対応するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・見学希望があれば、サービスの説明を行い、必要に応じて他のサービスを紹介するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「笑顔とやすらぎのある暮らし」をモットーに馴染みの関係を作りながら、共に支え合う暮らしが送れるように努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には気軽に来訪して頂けている。遠足等の行事への参加も少しずつ増え共に支える関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた方々の訪問や普通通っていた美容院の方が通院しにくくなった本人の為に来訪して、カットをしてくれたり馴染みの関係が、途切れない様になっている。	入居前に利用者が行きつけだった美容院に同行している。行くことが難しくなった利用者には馴染みの美容師に来てもらっている。昔利用者にお世話になったと来訪する人を迎えている。利用者が以前住んでいた京都四条の家を同行して見に行っている。社交ダンスが趣味だった利用者には、職員等が社交ダンスを見せている。ボランティアのハモニカ演奏を聞いて初恋の人を思い出したという利用者と一緒にハモニカを買いに行っている。利用者がよく買い物に行っていた大きなデパートへ同行し、馴染みの店員と出会う。	
21		○利用者同士の関係の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションを一緒に行うとともに、会話・家事の時などコミュニケーション仲介をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方を訪問したことは何度かあるが、特別な支援はしていないのが現状。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、その人の希望や意向が生活に組み込まれるよう会議やセンター方式を導入し検討している。	利用開始時に利用者、家族、介護サービス利用時のケアマネジャー、医師等から情報を得て、利用者の理解に努めている。「家に帰りたい」「自分のペースで楽しく暮らしたい」「さびしいので人のいるところにいたい」等、それぞれ利用者ごとの前向きな思いを記録している。大阪出身、城陽市生まれ、料理旅館の長女、3人兄弟の真ん中、仕事は土木業、夫は靴製造業等、生活史を聞き取り記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族に生活歴の聞き取り、入居前のサービスの担当者からの聞き取りなどにより情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや、日誌などから情報を共有し、状態把握に努め、その状況に応じた活動を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画見直し時に担当者会議を開催し、意見を出し合い、その意向を反映させた介護計画を作成している。	担当職員とケアマネジャー等、職員が利用者の介護計画を立てており、計画の見直しの際には家族宛てに利用者の状況を手紙に書き、介護計画への希望を聞いている。「ビールを飲ませてやってほしい」等の希望に対応している。介護計画は「自分らしく暮らすために、出来る家事をしてもらう」「食が進むように、食事の工夫」「不安な様子ときは寄り添う」等、利用者ごとに個別の前向きな介護計画である。介護の記録は介護計画の項目にそって記入されているものの、非常に簡単な内容である。モニタリングは3カ月ごとに実施しており、ケアの実施状況、利用者・家族の満足度、利用者の生活状況、計画の評価について記録しているものの、介護計画の項目ごとに書かれていない。	介護記録はモニタリングの根拠となるように、ケア実施の際の利用者の表情や発言、ケア拒否の際の要因等について記録すること、モニタリングは毎月実施し、介護計画の項目ごとに記録すること、以上の2点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し毎日の申し送りなどで情報を共有してケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーや喫茶店に行ったり保育園との交流は続けている。又、学区福祉委員の方達の協力を得て餅つきをしたりしているが、今後、更に取組を広げてゆきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度かかりつけ医が往診に来てくれている。週に一度訪問歯科医が口腔ケアなどできてくれている。専門科への受診もご家族と職員が同行し状況などを伝えている。	ホームの近くのクリニックの医師が利用者のかかりつけ医とし、毎月2回往診してくれる。認知症を受診する利用者には受診の際に職員が同行し、医師との情報交換しており、連携できている。歯科医は月1回、歯科衛生士は毎週往診し、指導してくれる。往診医のクリニックで年末に餅つきがあり、利用者と参加し、お餅をいただくのが楽しみである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や気づきをグループホーム内の看護師に伝え相談している。又、随時看護師からホームドクターに連絡して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時及びお見舞い時等病院の関係者と連絡をとり、ご本人の様子がわかるように努めている。また、病院・家族と連携し、ご本人と仲の良い利用者と一緒にお見舞いに行き、退院への意欲を引き出すような取り組みも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化や終末期のあり方についての方針は、重要事項説明書に記載し契約時に説明している。	1人の利用者と家族はターミナルケアを希望しており、毎月往診してくれる医師とも話し合い、ホームとして実施する予定である。ホームとしての方針の明文化はなく、すべての利用者、家族の意向の把握はできていない。	ホームとしての方針を明文化し、利用者の重度化や終末期に関して、できることとできないことを明記し、それをもとに早い段階から利用者、家族の意向を把握しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・夜間緊急時対応のマニュアルに沿った対応が出来るよ取り組んでいるが、応急手当等の実践力は不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防等と共に通報、避難訓練を行っている。	火災についての備えをしている。避難訓練は年2回、消防署の協力のもと実施しているものの、地域の人の協力はない。地震や夜間の訓練は実施していない。抜き打ちの訓練を実施してみている。備蓄やハザードマップの備えはない。	避難訓練は職員の身に付くように隔月くらいに、夜間や抜きうち、地震等も含めて実施すること、備蓄の準備、ハザードマップを掲示して職員が危険個所を認識しておくこと、以上の3点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉づかいや対応を心掛けている。又、研修を通して理解を深めるように努めている。	利用者に対しては、人生を生きてきた先輩としての気持ちを忘れずに言葉遣いに注意し、業務優先の対応をしないようにしている。食事中の人がいるのに立って、後片付けをする等は厳禁である。飲み物や着る物は、選択肢をあげて、利用者の意志を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望が表出出来る様に利用者に応じた支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、一人ひとりのペースを大切にし、可能な限り、そのペースに添えるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際の化粧等生活の中で張り合いが持てる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事の準備、片づけなど利用者と職員と一緒に楽しんで取り組めるよう努力している。	昼食の週に2回～4回は業者から副菜の配達を受け、ごはんと汁物をつくっている。他は、利用者の希望を聞きながら献立をたて、買い物、調理、盛り付け、後片付け等、利用者とともにやっている。朝食はごはんとパンが交互、旬の食材を使った和洋中の献立である。職員も共に食卓を囲み、賑やかな会話が弾む。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援	食事量など毎食記録し、個人の嚥下能力に		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	応じた食事を提供している。栄養のバランスについては同法人内の管理栄養士による指導を検討中である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科の往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の状況に応じて声掛けやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	「なるべくトイレでの排泄を」という方針のもと、排泄チェック表を記録し、利用者個々のパターンを把握し、声掛け、誘導している。退院時、おむつ使用であっても改善している。昼間は自立、夜間のみパットとなった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜を、又、水分も多く摂取して頂き、体操・レクリエーション等で運動を実施している。また、主治医の指示により下剤での排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に一回入浴している。本人用のシャンプーやボディソープも用意し入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。個々に合った支援は今後の課題である。	広く明るい浴室である。スケジュールを決めるのではなく、希望が出たときに入浴を支援しており、週に2,3回を目標にしている。同性介助により、職員は利用者が入浴を楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごして頂き、生活のリズムを整え、安眠に繋がるよう心掛けている。日により入床前に少し甘いホットミルクを提供することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書をファイルに保管しお薬手帳も各利用者分用意。いつでも見れるようにし、全職員が把握出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた役割をして頂いたり、買い物・散歩・ドライブなどで気分転換を図っている。又、昔の思い出でハーモニカを吹きたいという利用者の支援も行った。		
49	(18)	○日常的な外出支援		ふだんの散歩や買い物の他に、乃木袖社へ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出行事と日常的な買い物に近隣のスーパーに出かけている。秋の遠足では二組のご家族にも参加して頂けた。	の初詣、観音寺でのお花見、信楽、宇治植物園、西陣織会館、水族館等、ドライブを毎月のように楽しんでいる。回転ずしなどの外食も行く。買い物に行きたいという利用者を同行していずみやへ行き、帽子を買って食事をして帰る等、個別外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多くの方は事業所で一括管理をさせて頂いているが、美容院に行ったり少額で買えるおやつ等、出来る方は少数だが、お金を使う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方もおられる。また、昔の友人と手紙のやり取りをされている方もおられる。母の日にはこちらからお願いしたのではあるが、ご家族の方からご利用者にお手紙をいただいた。又年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの写真や共同作品を飾りご家族様の持参して頂いた生花を飾る等心掛けています。今後は掃除時の掃除機による騒音を減らしていくようにしたい。	大きな窓から陽が注ぐ広い居間兼食堂にゆったりと椅子と食卓、片隅にソファをおいたコーナーがある。大きな字で書いた手作りカレンダー、時計をかけ、行事の写真がにぎやかである。廊下には風景写真をかけ、居室には部屋ごとに異なる手作りでカラフルな表札と折り紙の作品をかけている。不快や混乱を招く刺激はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたところにソファを置いたり玄関前にベンチを置いたり、気分転換が出来る様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使っておられた馴染みの物やご本人の大切な物を持ってきて頂ける様、働きかけている。	窓が大きな広い洋間、希望によりタタミを敷くこともできる。クローゼットが備え付けになっており、利用者は整理タンス、神棚、テレビ、椅子、衣装かけ等を持ち込んでいる。壁にはカレンダーや千代紙でつくったモビール、塗り絵をかけ、孫の結婚記念写真、夫の遺影等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣場に手すりを設置した。居心地良く、かつ安全に過ごして頂ける居室のレイアウトの工夫が今後も課題である。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200105		
法人名	社会福祉法人 不動園		
事業所名	宇治やすらぎの家 2F		
所在地	宇治市宇治戸ノ内22-6		
自己評価作成日	平成25年10月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム宇治やすらぎの家は、数多くの宇治の観光名所や商店街に程近くとても環境に恵まれた地域にあります。その立地条件を活かし、お天気の良い日はなるべく散歩に出かけ、季節の移り変わりや賑わいを感じて頂いております。又、月に一度「みんなで外出、外食」を実施しています。普段からご利用者の力を引き出せるように心掛け、毎日、食材の買い出しや掃除、洗濯、調理等を一緒に行い、支え合いながら暮らしています。ご利用者やご家族のご希望や思いに沿った個別対応も実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1F報告書に同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

1. シカゴの人口

4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より法人理念「共感と信頼」に沿った、やすらぎの家独自の理念「笑顔とやすらぎのある暮らし」と云う理念を策定し、ご利用者お一人お一人に寄り添って、生活のサポートを心掛けている。	1F報告書に同じ。以下同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーや喫茶店に出向き施設自体を認知して頂ける様につとめている。又学区福祉を通じて町内会の催しに参加させていただけるように努めてはいるが、まだ実現はできていない。今後も働きかけは続けていく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年同様に検討課題としてのままである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一回開催し、出席者へ事業報告を行い、意見や情報を交換し、提供するサービスの向上に努めている。又今年度より2回に1回程度ではあるが、宇治市より担当者も出席頂けるようになる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記のように宇治市からも運営推進会議に参加して頂けるようになる。また必要に応じて宇治市の介護保険給付係の担当者と電話や面談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの大きい玄関は、昨今の事件等を受け、防犯の為施錠していますが、各フロアの入り口は常に出入り可能にするとともに、職員研修によるケアの向上を目指している。		
7		○虐待の防止の徹底	初め時に初め内容、施設の方針等を説明		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時に契約内容・施設の方針等を説明し、理解・同意を得ている。また質問についても説明を行っている。契約後もいつでもお話しできるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議を二ヶ月に一度開催し、出席者へ事業報告を行い、意見や情報を活かし、提供するサービスの向上に努めている。また成年後見人制度をご利用の方も3名おられるので、後見人様のお話を聞く機会も持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容・施設の方針等を説明し、理解・同意を得ている。また質問についても説明を行っている。契約後もいつでもお話しできるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、介護相談員が来所されご利用者の要望の聞き取りを行ったり、家族会を開催し家族同士の意見交換や要望を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、介護相談員が来所されご利用者の要望の聞き取りを行ったり、家族会を開催し家族同士の意見交換や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、必要な対応ができる様に努めている。またパート職員に関しては、雇用更新時に時給をアップをしたりもしている。又パート職員から正規職員への開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験がない方でも福祉に情熱をお持ちの方であれば採用し資格などの習得を推奨している。また、内部研修にも出来る限り参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の介護支援専門員連絡会に参加している。又宇治市が地域密着型施設の連絡会を作るように検討している途中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面談においては、利用中のサービス先や家庭を可能な限り訪問し、本人の思いや要望を聞き取り、安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を随時受け、家族の要望を聞きながら、家族・本人の安心が得られるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・見学希望があれば、サービスの説明を行い、必要に応じて他のサービスを紹介するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念の「信頼と共感」、及び事業所の理念「笑顔とやすらぎのある暮らし」を念頭に置き、馴染みの関係を作りながら共に支え合いながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にはいつでも気軽に来訪して頂ける関係になっている。又、各行事にもなるべく多くの方に参加して頂き、要望や協力事項への意見を交わす等共に支え合える関係を築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者は友人などの面会がある。又、馴染みの美容室に通われている方や職員や職員と馴染みのある場所・自宅に行くなど今までの生活習慣・関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルが起きることもあるが、職員が間に入り、良い関係が築ける様に仲介役となっている。又、利用者同士が支え合える雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻回とは言えないが、面会に行ったり招いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望を汲み取るように努め、職員間ではカンファレンス等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族に生活歴の聞き取り、入居前のサービスの担当者からの聞き取りなどにより情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりにより状況把握を行い、申し送り等で情報の共有化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにご本人やご家族の参加はなかなかしていただけてないが、要望や意見を聞き、主治医の意見を反映させた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活・心身の状態を記録に残し、ケアプランを基にケアを行っている。又、変化があれば、その都度話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーや喫茶店に行ったり保育園との交流は続けている。又、学区福祉委員の方達の協力を得て餅つきをしたりしているが、今後、更に取組を広げてゆきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度かかりつけ医が往診に来てくれている。ご本人・家族等の希望により他の専門医を受診する方もおられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や気づきをグループホーム内の看護師に伝え相談している。又、随時看護師からホームドクターに連絡して指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院へ情報提供を行っている。入院中は出来る限り面会に伺い、状態の把握に努め、必要に応じてカンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化や終末期のあり方についての方針は、重要事項説明書に記載し契約時に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・夜間緊急時対応のマニュアルに沿った対応が出来るよ取り組んでいるが、応急手当等の実践力は不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の義務付けられた避難訓練のほか、簡単ではあるがユニット内で頻回に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉づかいや対応を心掛けている。又、研修を通して理解を深めるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望が表出出来る様に努めている。表出することが困難な方には選択肢を用意する等、利用者に応じた支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、一人ひとりのペースを大切に、可能な限り、そのペースに添えるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択・整容はなるべくご利用者にして頂き、出来ないところは職員が手伝っている。外出の際には、化粧など、生活に張り合いが持てる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材の買い物、食事準備、後片付けなどを利用者と職員と一緒に楽しみながら行えるよう取り組んでおり、ご利用者から自発的なお手伝いや、積極的な意見もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日記載して過不足にならないように心掛けている。又、個人の嚥下、咀嚼能力に応じた食事や飲み物を提供している。献立表などを基に栄養のバランス確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合った口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、状況に応じて声掛けやトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を支援している。又、日々の引継ぎ時、職員間で意見交換し、紙パンツを減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜を、又、水分も多く摂取して頂き、体操・レクリエーション等で運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に一回入浴している。本人用のシャンプーやボディソープも用意し入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。個々に合った支援は今後の課題である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごして頂き、生活のリズムを整え、安眠に繋がるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書をファイルに保管しお薬手帳も各利用者分用意。いつでも見られるようにし、全職員が把握出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かして家事に取り組んで頂いたり、買い物や散歩・外食・喫茶店へ出掛け等して楽しみや気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出の要望に応じ切れていない面もあるが、近所のスーパーや喫茶店、花見・紅葉狩り等外出行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望によりある程度の金銭を所持、管理しているご利用者もおられるが、多くは了承を得た上で事業所で一括管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、相手側の了承を得た上で電話は自由に使用して頂いている。また、手紙や年賀状のやり取りもされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に手作りの表札を掛け、親しみやすい雰囲気になっている。行事ごとの写真やご利用者の作品を飾り、新たに書棚を設置し、雑誌や図書館で借りてきた書籍、写真集を置き生活感もだしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き、くつろいで頂いている。玄関前にベンチを置きちょっとした気分転換ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使っておられた馴染みの物やご本人の大切な物を持ってきて頂ける様、働きかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩いて頂ける様に廊下や必要な場所には手すりを設置しており、安全に過ごして頂ける様、居室のレイアウトにも工夫をいっている。		